

集計データについて

当院の院内がん登録は、『がん診療連携拠点病院院内がん登録標準様式（2006年度修正版）』に従い、登録対象は以下のとおりである。

- ・国際疾病分類-腫瘍学第3版（ICD-O-3）における形態コードの性状コードが2（上皮内癌）もしくは、3（悪性、原発部位）のものとなる。
- ・脳腫瘍に関しては、原則的に良性であっても登録対象となる。
- ・上記の腫瘍のうち、入院・外来問わず当院において当該腫瘍に対して初診し、診断・治療の対象となった腫瘍を登録対象とする。

また、平成27年（2015年）1月1日から同年12月31日までに当院において診断または治療をされた症例を2015年症例といい、今回の報告には平成28年8月に実施された『がん診療拠点病院等院内がん登録2015年全国集計』へ提出したデータを基に集計を行っている。

がん予後統計については『院内がん登録 2008、2009年5年予後調査結果』のデータを基に集計を行っている。

また、症例統計については、〈すべての院内がん登録症例〉で集計しており、がん予後統計については、〈当院の治療症例で上皮内を除く症例のみ〉で集計している。

参考値として「がん診療連携拠点病院 院内がん登録全国集計 報告書」国立がん研究センターがん対策情報センターを利用している。

※がん診療連携拠点病院 院内がん登録全国集計報告書や2008年生存率集計については、国立がん研究センターのがん情報サービスWEBにて公開しているので、そちらをご覧ください。

病期別の統計では治療前のステージ別（UICC TNM 分類）（肝臓は UICC TNM とがん取扱い規約分類）で行っており、最終病期（病理学的病期）とは異なっている。

症例数5以下は個人が特定される可能性が高いため、「-」で表示している。

合計数が判明すると症例数が特定される場合は、合計数を「-」で表示している。

【留意事項】

5年生存率とは、診断から5年後に生存している確率（生存者数の割合）をいい、当院ではこの5年生存率を実測生存率で計算している。実測生存率とは死因に関係なく、すべての死亡を計算に含めた生存率で、この中には、がん以外の死因による死亡も含まれる。

また、予後判明率とは、患者の生死の把握率を表している。

国立がん研究センターや他院の公表しているデータと比較できるように上記データを用いましたが、データを比べるためには集計方法や計算方法が異なると単純には比べることができないので注意が必要です。